

農業労働力の年齢階層

わが国の産業別就業者数（15歳以上）は、2019年で6,724万人。うち上位は、製造業1,063万人（15.8%）、卸売業・小売業1,059万人（15.7%）、医療・福祉843万人（12.5%）となっている。農業従事者は203万人で、全就業者の3%に過ぎない。農業従事者の男女の割合をみると、男が60%、女が40%となっている。

この5年間、農業従事者数はほぼ横ばいだが、高齢化が進んでいる。実際の農業を支えている販売農家（145万人）の「基幹的農業従事者」（普段、仕事で主に農業に従事している者）の年齢階層を表に示した。最も多いのが65～70歳で、販売農家全体の27%、次いで75歳以上が26%であり、65歳以上

の占める割合は約7割に達する。そして、70歳以上が42%、60歳台38%、50歳台9%、40歳台6%、30歳台4%となり、農業従事者の年齢階層は高齢者を頂点とした逆ピラミッドとなっている。

一方、雇用労働についてみると、農業経営体の雇用者のうち、「常雇い」数は23万6,100人。年齢階層別では、29歳以下が最も多く15%を占めるが、各階層にほぼ均等に年齢分布する。49歳以下でみると、基幹的農業従事者は14万7,800人で11%の割合に対し、常雇いは11万9,800人で51%と多勢を占める。なお、この他に臨時雇いとして234万6,200人がいる。（K.O）

表 基幹的農業従事者と農業経営体の常雇いの年齢階層

年齢	29歳以下	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75歳以上	計
基幹的農業従事者(千人)	16.5	22.1	29.5	38.3	41.4	48.7	80.0	148.7	388.7	227.3	362.8	1,404.1
割合(%)	1.2	1.6	2.1	2.7	2.9	3.5	5.7	10.6	27.7	16.2	25.8	100
常雇い(千人)	36.0	21.9	21.7	21.5	18.7	19.0	19.3	25.5	24.5	17.3	10.8	236.1
割合(%)	15.2	9.3	9.2	9.1	7.9	8.0	8.2	10.8	10.4	7.3	4.6	100

農業構造動態調査(2019年)

令和元年度うるち米の品種別作付割合

（公社）米穀安定供給確保支援機構では、米の生産に係る基礎的な資料として、水稻の品種別の作付割合について毎年、道府県行政等から情報提供された数値を基に独自推計を行い、年産ごとに水稻の品種別作付動向を公表している。ここでは、作付け割合の多い上位20品種を表に示した。

それによると、令和元年産うるち米（醸造用米、もち米除く）

でもっとも作付けが多かった品種は「コシヒカリ」で作付け割合は33.9%、24府県で作付順位1位となっている。2位は「ひとめぼれ」、3位は「ヒノヒカリ」、4位は「あきたこまち」、5位は「ななつぼし」となっている。

作付割合上位10品種が全体に占める割合は72.2%、上位20品種では81.9%となっている。（K.O）

令和元年産うるち米（醸造用米、もち米を除く）の品種別作付割合上位20品種

順位	品種名	作付割合	主要産地	順位	品種名	作付割合	主要産地
1	コシヒカリ	33.9	新潟、茨城、福島	11	ぎぬむすめ	1.5	島根、岡山、鳥取
2	ひとめぼれ	9.4	宮城、岩手、福島	12	こしいぶき	1.4	新潟
3	ヒノヒカリ	8.4	熊本、大分、鹿児島	13	つや姫	1.2	山形、宮城、島根
4	あきたこまち	6.7	秋田、茨城、岩手	14	夢つくし	1.0	福岡
5	ななつぼし	3.4	北海道	15	ふさこがね	0.9	千葉
6	はえぬぎ	2.8	山形、香川	16	つがるロマン	0.8	青森
7	まっしぐら	2.2	青森	17	あいちのかおり	0.8	愛知、静岡
8	キヌヒカリ	2.1	滋賀、兵庫、和歌山	18	彩のかがやき	0.7	埼玉
9	あさひの夢	1.7	栃木、群馬	19	天のつぶ	0.7	福島
10	ゆめぴりか	1.6	北海道	20	きらら397	0.7	北海道

公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構